

抵抗性台木を用いたイチジク株枯病防除技術の開発

1 中核機関・研究総括者

大阪府立食とみどりの総合技術センター 細見 彰洋

2 研究期間

2004～2006年度（3年間）

3 研究目的

近年、イチジク主産県においては土壌病害である「イチジク株枯病」が蔓延し、産地を揺るがす重大な問題になっている。そこで、抵抗性台木を用いて本病を確実に回避する技術を開発する。

そのため、最適な抵抗性台木の選抜、接ぎ木法の開発、台木使用樹の密度管理と栽培法の指針化を行う。

4 研究内容及び実施体制

- ① 台木に適した抵抗性イチジクの選抜（福岡県農業総合試験場豊前分場、愛媛県立果樹試験場、大阪府立食とみどりの総合技術センター）

菌の精密検出や樹勢の迅速評価法を用い、既存品種やその交配系統の中から、樹体内での病原菌の拡散が少なく、良好な樹勢を維持できる台木を選抜する。

- ② 抵抗性台木への接ぎ木法の開発（大阪府立食とみどりの総合技術センター、福岡県農業総合試験場豊前分場）

防除効果と良好な樹勢を両立できる接ぎ木法を開発する。

- ③ 台木使用を前提とするイチジク栽培法の解明（大阪府立食とみどりの総合技術センター、大阪市立大学、福岡県農業総合試験場豊前分場、愛媛県立果樹試験場）

抵抗性台木を使用したイチジク「柘井ドーフィン」、「蓬莱柿」の密度管理と栽培法の設計を行う。

5 目標とする成果

株枯病抵抗性台木を用いた確実な防除法が開発される。これにより、生産放棄などの危機的状況を打開できる。また、連年に渡る土壌への薬剤投入を不用にし、環境に配慮したイチジク栽培を実現できる。

抵抗性台木を用いたイチジク株枯病防除技術の開発

- 1 台木に適した**抵抗性イチジク**の選抜
- 2 抵抗性台木への**接ぎ木法**の開発
- 3 台木使用を前提とするイチジクの**栽培法**の解明

Needs



深刻な株枯病

完治できず被害が拡大。
環境に配慮した防除が必要。

Seeds



そこで・・・

Succeed **抵抗性台木**を実用化
 ・産地の崩壊をくい止める
 ・環境に負担を掛けない



3

- 最適な**栽培法**を決める
 - ・イチジクの密度効果の解明
 - ・抵抗性台木を用いた栽培法の設計



2

- **接ぎ木法**を開発する
 - ・菌からの隔離と樹勢が両立する接ぎ木位置を解明
 - ・中間台木を活用して樹勢を強化



● 台木を選ぶ

- ・菌拡散が少なく樹勢が衰えない品種を迅速に選抜

1

- **菌の拡散**を知る
 - ・PCRで菌を精密に検出
 - ・菌の挙動を解明

